

初級後期レベルにおける音読活動実践報告 : 学習者自身の発音に関する意識に注目して

著者	小浦方 理恵, 長戸 三成子
雑誌名	筑波大学留学生センター日本語教育論集
号	29
ページ	105-117
発行年	2014-02
その他のタイトル	A Report on Reading Aloud Activities for an Advanced Beginner 's Class
URL	http://hdl.handle.net/2241/121201

初級後期レベルにおける音読活動実践報告

— 学習者自身の発音に関する意識に注目して —

小浦方 理恵 長戸 三成子

要 旨

本稿は2012年度と2013年度前期に行った音読活動の実践報告である。2012年度は今まで行われてきた音読活動に加え、自分の発音についての問題点の把握、そしてその改善を行うことを活動目的の中心にした。本稿では、学習者は自分の発音についてどう捉えているのか、また、それはどう変化するのかを明らかにするため、アンケート調査と学習者の振り返りの記述から、分析を行った。2013年度は、新たに学内のSNSを利用して同様の音読活動を引き続き行った。

【キーワード】 音読 発音 問題点の把握と改善 SNS

A Report on Reading Aloud Activities for an Advanced Beginner's Class

KOURAKATA Rie, NAGATO Minako

[Abstract] This is a report on the Reading Aloud Activity for an advanced beginner's class in 2012 and the first semester in 2013. The primary goal of this activity in 2012 was that the students would grasp their problems in pronunciation and improve them. In order to know the students' awareness of their Japanese pronunciation, we analyzed the results of questionnaires and descriptions provided in student reflections. The same activity has been continued in 2013 by newly utilizing the intra-university SNS.

[Keywords] reading aloud, pronunciation, grasping and improving problems, SNS

1. はじめに

本稿は2012年度と2013年度前期に行った音読活動の実践報告である。本実践は初級後期レベルであるJ400コース（2013年度からは筑波大学が3学期制から2学期制に移行したため、J300に名称が変更）で行ったもので、2009年度から行われていたDaily Reading Aloud（以下、DRA活動）と呼ばれる音読活動を踏襲し、2013年度まで行われている（加納ほか2010）。

2. 2012年度J400コースについて

本実践は2012年度のJ400コースの中で行われ、J400コースのカリキュラムの一部として位置付けられていた活動である。そこで、まずJ400について概観したい。筑波大学留学生センター初級補講コースには、J100からJ400までの4つのコースがあり、J400は初級後期レベルとして、初級補講コースの最後に位置付けられている（堀ほか2013）。対象者、目標などJ400の概要を表1にまとめた。

表1 J400コースの概要¹

対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語を300時間ぐらい勉強して、初級前半の日本語が終わった学生 ・ 短期留学生および研究留学生
目標	(1) 日常的で、具体的な話題についてコミュニケーションができる。 (2) 簡単な日本語を読んだり書いたりすることができる。 (3) 簡単な日本語で意見を言ったり意見を交換したりすることができる。
開講時期	4月～6月/9月～11月/12月～2月
コマ数	週5コマ×10週
教科書	『初級日本語』 ² Lesson19－Lesson24
副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『Situational Functional Japanese (以下、SFJとする)』 NOTES Vol.3 ・ 『わくわく文法リスニング』 ・ オンラインで使える音声・映像教材 ・ 音読教材「Daily Reading Aloud」(DRA) ・ 読解会話作文教材「Read to Talk and Write」(RTW)

J400は表1に挙げた3つの目標を掲げている。そして、J500からは中級レベルの技能別コースに分かれるため、J400では中級への橋渡しの役割を常に意識し、運用力の向上を心掛けてきた（堀ほか2013）。この運用力を考える際、J400レベルの学習者によく起こるのは、既習の簡単な文法項目を使って話そうとしても、発音上の問題が原因となり、「相手に伝わらない」という状況である。また、学習者から「簡単な日本語でも相手になかなか伝わらず、自分の発音に自信がない」、「自分の発音の問題点分からない」という声もよ

く聞かれる。これらの問題点を解決するため、教師からのフィードバックだけではなく、学習者が自分の中で発音の基準を作り、その基準から自分の発音を見直し、気づきを得ることが必要だと考えた。そこで、学習者が自分の発音上の問題点に気づき、改善することで、音声面から日本語の運用力を高めることをDRA活動の目的とし、実践を行うことにした。

3. 2012年度DRA活動の内容

2012年度のDRA活動では、J400での学習課である第19課から第24課までを範囲とし、①音声を聞いたり、クラスメートの発音を聞いたりすることで、「分かりやすい話し方」とはどういうものかを意識する、②聞き手が分かりやすいように発音、流暢さ、ポーズなどを意識しながら話せる、③クラスメートや先生からのコメント、そして活動後毎回記入する「わたしのカルテ」(資料1参照)から自分の問題点に分かり、その問題点を自分で改善できる、の3点が活動目的であることを学習者に説明し、実践を行った。3つ目の目的である「自分の問題点に分かり、それを自分で改善する」ことができるよう、2012年度からは「私のカルテ」という資料を追加し、学習者が活動のたびに自分の問題点を把握し、文字化することでその改善を課ごとに縦断的に意識付けられるようにした。活動手順は表2のとおりである。

表2 DRA活動の主な使用教材と活動手順

使用教材		『SFJ NOTES』の各課にある「Report」文の音声
		「Report」文のスク립トを冊子にまとめたもの
活動手順	事前準備	学習者は各自Web上の「Class Library」から音声をダウンロードする
		冊子のスク립トを見ながら学習課の音声を何度も聞き、各自で練習する
	授業での活動	課ごとにStep1からStep3の順に行う (DRA活動がスケジュールに入っている日に1ステップずつ、各ステップ10分ほど)
		Step1
Step2		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、一度ずつ読む ・ペア同士で音読についてコメントをしあう ・教師もコメントをする ・「わたしのカルテ」にクラスメートや教師からもらったコメントを記入する
Step3	<ul style="list-style-type: none"> ・Step2と同じ(「わたしのカルテ」には問題点が改善されたかどうかを記入する) 	

音読するテキストは前年度までと同様、『SFJ NOTES』の各課にある「Report」文にした。その理由は、主教材で学習した語彙、文法項目、表現を用いたテキストを音読することにより、インプットの負担を増やさずに、語彙や文法項目の定着を深めること、そしてインプットを用いて音読練習をすることで、主教材で用いる文法練習や会話練習の補強となり、最終的には運用力へとつながることをねらったからである。

また、評価については、音読テストを2回行った。評価手順は、指示された課を学習者が音読し、その音声を録音したCD-Rを教師に提出した。そして教師はその提出された音声を聞いて評価した。評価観点として、発音やアクセント、流暢さに加え、学習者が自分で考えた評価してほしいところも評価観点として採用した。これは学習者自身が自律的に問題点の設定ができるよう行ったものである。

以上が活動内容であるが、①モデル音声を聞き、発音の基準を作る、②クラスメートや教師によるコメント、そして自分の音読の録音から、自分の発音を客観視する機会を得る、③カルテを記述し、自分の発音の問題点や改善した点を文字化することで、継続的に意識付けを深め、音声面から日本語を使う能力を高める、の3点が実現できるよう、活動を行った。

4. 学習者の発音に関する意識の内容とその変化

前章で述べたように、2012年度のDRA活動は、学習者が自分の発音を意識し、その結果得た問題点を自分で改善できることを目標の中心に据え、実施した。それでは、学習者たちは自分の発音についてどう感じながら、この活動を行っていたのであろうか。そして、自分の発音に関する意識は、活動が進むとともに変化するものであろうか。学習者の発音に関する意識の内容や、DRA活動による発音意識の変化の様相を知ることが、活動の改善を考える際に必要なことだと考える。そこで、本章では自分の発音に関する意識についてのアンケート回答結果と、「わたしのカルテ」の記述から、学習者の発音に関する意識の内容とその変化を探りたい。

4.1 学習者の発音に関する意識

2012年度は、自分の発音についてどう思うかについてのアンケートを、学期ごとに、活動実施前（1週目に実施）、活動実施中（5週目に実施）、活動実施後（9週目に実施）の3回行った。内容は、自分の発音に自信があるか、自分の発音の問題点を知っているか、アクセントや長音、促音などに自信を持っているかなどを5段階の評価尺度で問う部分と、自由記述の部分に分かれている（資料2参照）。本稿では、2012年度の1学期に行ったアンケートの回答のうち、研究使用許可を得られた回答（実施前19名、実施中15名、実施後19名）の結果を報告する。

まず、評価尺度で回答された部分を見たい。5段階の評価尺度で回答された質問項目は全部で10問ある。質問1から質問4までは発音全体についてや、自分の問題点とその改善

方法などについての質問、質問5から質問10はアクセントや長音、促音など、学習者にとって苦手だと言われている項目についての質問である。結果を平均し表3にまとめた。

表3 アンケート結果 (2012年度1学期)

	1 週目	5 週目	9 週目
質問1 発音に自信がある	3.37	3.53	3.65
質問2 自分の発音のいいところを知っている	2.89	3.67	4.00
質問3 自分の発音の問題点を知っている	3.68	4.13	4.18
質問4 どうしたら問題点がよくなるかを知っている	3.17	3.67	3.76
質問5 アクセントに自信がある	3.32	3.27	3.29
質問6 長音に自信がある	3.05	3.60	3.41
質問7 カタカナ語に自信がある	3.42	3.27	3.65
質問8 促音に自信がある	3.63	3.80	3.59
質問9 流ちょうに話すことができる	2.89	3.33	3.29
質問10 意味を考えながら話すことができる	3.16	3.57	3.65

表3を見ると、ほとんどの質問項目の点数がDRA活動が進むとともに、増加しており、音読活動をすることにより自分の発音に対して自信をつけていることが分かる³。

次に、自由記述の部分を見ていく。実施前アンケートと実施中アンケートの自由記述で

表4 発音についての問題点

(自由記述のうち、質問5から質問10以外の回答を抜粋)

実施前アンケート	実施中アンケート
<ul style="list-style-type: none"> ・濁音 ・イントネーションが一番悪いと思います ・漢字の読み方がわからない ・どこでポーズを取ったらいいかわからない ・長い文を読むのが難しい ・発音について自信があります。でも、もっと努力して勉強します ・まだありません 	<p>【単音の発音について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「た、て、と」の発音が強すぎる ・「じゃ」「ぎ」 ・「つ」「す」「し/si」 ・「R/RR」すぎる ・「ち/し」は発音が少し難しい <p>【アクセントについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ語が英語のアクセントになってしまふ ・アクセントの中でどこが高くなるかがわからない <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音のバランス ・ポーズの場所 ・話すとき、言葉や文法ばかり考えて、発音が考えられない

は、学習者が問題点だと感じている部分を具体的に書いてもらった。その結果を見ると、質問5から質問10に出てきたアクセントや特殊拍、流暢さについての記述が多かったが、それ以外の記述を表4にまとめた。表4の実施前の記述と実施中の記述を比べると、活動が進むにつれ、問題点の把握が進み、より詳細に具体的に問題点を記述していることが分かる。

4.2 学習者の発音に関する意識の変化

本節では、個人のアンケートの結果をカルテの記述と一緒に見ることで、より詳細な意識の変化を見ていきたい。アンケート結果やカルテの記述から、特徴的だった学習者Aと学習者Bを取り上げ、その結果を記す。学習者Aは、活動が進むとともにアンケートの数値も上がり、自信を持つようになってきている事例であり、一方、学習者Bは活動前には自分の発音に自信を持っていたが、活動開始後、その自信をなくしている事例である。

学習者Aのアンケートを見ると、実施前の平均が3.1、実施中の平均が4.1、実施後の平均が4.4である。順調に自分の発音の問題点を把握し、それを改善したと感じ、自信を持つようになってきている。Aの変化を詳細に見るため、「わたしのカルテ」の記述から抜粋したものを表5にまとめた。

表5 学習者Aの「わたしのカルテ」の記述(抜粋)

L19	改善したい点	母音の発音、イントネーション	
	もらったコメント		「すばらしい(…そう思わない、私)」
	改善された点	母音は大丈夫になったけど、イントネーションはまだよくない	
L20	改善したい点	知らない言葉の発音、長い文の流暢	
	もらったコメント		アクセントを直す
	改善された点	知らない言葉を直して、流暢を少し直した	
L21	もらったコメント	「となり」をちゃんと一つずつカナをよんで	
L22	改善したい点	長い送りがなをはっきり言う、	アクセントを直す
	改善された点	長い送りがな 半分〇、はっきり〇、	アクセント〇
L23	改善したい点		アクセント
	もらったコメント	「とても、ゆうべ、らなければならぬ、でも」のアクセント間違い	
L24	改善された点	大体大丈夫だけど、多分アクセントの悪いポイントまだある!	

表5を見ると、Aは問題点のうち、改善された点や今後改善すべき点を確実に把握しながら活動を進めていたことが分かる。例えば、第20課では、「知らない言葉の発音と長い文の流暢さ」を改善したい点として設定し、活動を始めている。そして、第20課の練習が終

わる時点で、「知らない言葉の発音を直して、流暢さを少し直した」と自分が記述した問題点に即して改善された点を記述し、どの問題点がどの程度改善されたかを言語化している。このような記述は第19課、第22課にも見られた（表中の四角で囲った部分）。また、「アクセント」を改善したいという記述は第20課だけではなく、第22課、第23課にも出てくる。このように、Aは、以前に問題点になったものを新たな課の改善したい点として継続して設定している。課が進み、音読するテキストが変わっても、以前の自分の問題点を継続して持ち続け、自分の発音を縦断的に見つめていることが分かる。それから、第21課でクラスメートや先生からもらった「ちゃんと一つずつかなを読んで」というコメントを取り入れ、「はっきり言う」を第22課の問題点に設定している。他者からのコメントを、新たな自分の問題点として取り入れているのである（表中の網掛け部分）。

最後に、Aの自分の発音への自信と関連する記述を見ていく。Aは第19課の練習で、「もらったコメント」の欄に「すばらしい（…そう思わない、私）」という記述をし、クラスメートに褒められても自分の発音に自信がない様子であった。しかし、第24課のカルテには「大体大丈夫だけど、たぶんアクセントの悪いポイントまだある！」と書いている。周りの人のコメントを柔軟に取り入れながら、自分の問題点と改善された点を、課を越えて確実に把握していくことで、自分の発音に未だ改善点があることを認識しながらも、自信を持つようになったAの様子が、アンケート結果と同様、カルテの記述からも窺える。

しかし、DRA活動を行ったすべての学習者が順調に自分の発音に自信を持つようになったわけではない。学習者Bのアンケートを見ると、実施前の平均が5段階評価の4.5であり、自分の発音に自信を持っていたのだが、実施中では平均3.9に減少していた。その後、実施後では実施中より増加し、4.2であった。Bの認識の変化を追うため、Bの「わたしのカルテ」の記述から抜粋したものを表6にまとめた。

表6 学習者Bの「わたしのカルテ」の記述（抜粋）

L19	もらったコメント	文の音の高さ/低さ「を参考にして」、よかったところ…流暢でいい、スピード
L20	もらったコメント	<u>「コーヒー」と「コピー」の読み方</u> 、ゆっくりはっきり読む、 <u>原稿→ゲンゴ(×)</u>
L22	もらったコメント	<u>「っ」の発音に注意</u> 「いっしょだった」など
	改善された点	<u>「っ」の発音に注意</u> 改善しました
L23	改善したい点	さ↔しゃ
	もらったコメント	「ちょっと」と「ちょうど」のアクセント、渡す(わだす)、「て」と「で」の発音はちょっと…
	改善された点	たぶん…
L24	もらったコメント	「こないか」「いっしょに」のアクセント
	改善された点	Clear

Bは、実施前アンケートの自由記述欄に「発音について自信があります」と書いており、「自分の発音の問題点を知っている」の項目に対して、「とてもそう思う」の5を選択しているのだが、カルテには、第19課から第21課まで、もらったコメント以外の記入がなく、改善したい点と改善された点についての記述がなかった。授業記録を見ると、この間Bは欠席していたわけではなく、活動にも参加していたことから、改善したい点と改善された点が空白であったのは、問題点や改善された点を具体的に把握し、言語化することができなかったことによるのではないかと考える。それゆえ、第21課後に行った実施中アンケートでは、全体的に得点が下がり、発音に対する自信をなくしていたのだと考えられる。しかし、この結果は、自分の発音への認識が低かったときは、できていると思っていた発音が、認識が深まるにつれ、実際はそれほどできていなかったという気づきがあったからだと考えられることもできる。また、「長音に自信がある」の項目が、実施前は5の「とても自信がある」であったのが、実施中では3の「どちらともいえない」になっていた。これは、第20課で「コーヒー」や「コピー」、「原稿」という長音を含む言葉についてコメントをもらい（表中の波線部分）、それが自分の問題点だと気付いたためではないかと推察できる。

実施中アンケートまでは、自分の発音への自信をなくしていたBだが、実施中アンケート後の第22課では、もらったコメントに対応するように改善されたところを書いており（表中の四角で囲った部分）、その後、第23課、第24課でも改善されたところを記述している。そして、第23課では、初めて自分で問題点をカルテに記入している。それに対応するように、実施後アンケートの結果を見ると、実施中の落ち込みから自信が回復しつつある様子が窺える（実施中平均3.9から実施後4.2に増加）。しかし、「促音に自信がある」の項目のみ、実施中の4から、3「まあまあ自信がある」に変化していた。これは、第22課で促音についてのコメントをもらったこと（表中の二重線部分）も関係していそうである。

Bのアンケート結果だけを見ると、実施前の数値が最も高く、活動をすることで、自信をなくしているように見える。しかし、カルテとともにBの変化を追うと、自分の改善すべき点を設定できない状態から、徐々に設定できる状態へと変わり、自分の発音を改善していこうとしているのが分かる。

5. 2012年度DRA活動の改善

前章では、DRA活動によって、学習者が自分の発音に自信を持ちつつある様子、そして、教師やクラスメートのコメントから、自らの発音の問題点を設定し、改善している様子を窺うことができた。本章では、2012年度のDRA活動の改善点について記したい。

実施後アンケートの自由記述では、DRA活動をどう思うかについて書いてもらった。回答の大半が「自分の発音の問題点があった」、「問題点を改善できた」、「発音がよくなった」など、この活動を好意的に捉えていたものであった。しかし、中には改善すべき点を

述べた回答もあった。学習者からの要望を表7にまとめる。

表7 DRA活動について、改善してほしい点

- ・同じ文章を何回も読むより、発音のための説明や練習がある本を使ったほうがいい
- ・内容は学習者の生活と関係が近いけど、新文化ニュースなどの新しいものを入れたほうがいいと思います。
- ・DRAテストのmp3をCdRでなくてムードルにアップロード (up load) できればもっとべんりと思います

表7から分かるように、学習者からのコメントには、使用した文章についてのものが見られた。しかし、DRA活動は単独で存在している発音活動ではなく、コース全体が一貫したものになるよう、主教材である『SFJ』と関連させ、新出文法や文型、語に繰り返し触れ、定着を促せるようにと設定したものである。したがって、文章を『SFJ』と関連のないものに変更したり、発音のみに特化した教材を作ったりすることは、上の目的から外れてしまうため、現時点では得策ではないだろう。だが、テストの提出方法については、学習者からの指摘のとおり、改善の余地がある。これは改善すべき点とし、次年度に引き継いだ。

6. 2012年度の反省を踏まえた2013年度前期のDRA活動の試み

2013年度より筑波大学のカリキュラムが3学期制から2学期制へと移行し、それに伴って10週修了の初級後期J400コースは、15週修了のJ300コースへと名称が変わったが、DRA活動は継続されることとなった。期間延長によってJ100～J300のSFJ学習課の割り振りが変更され、J300の学習課は第17課から第24課までの全8課となった。また、J300修了後に進級する技能別クラスへの移行を踏まえ、応用力をつける目的でSFJ以外の教材から文法や語彙の負担が少なく、かつ、学習者の意見の要望にあった、文化紹介の要素を含む2つの読み物を選び、音読練習に加えた。

DRA活動そのものは、2012年度の活動内容・方法を踏襲し、1つの課をStep1、Step2、Step3の3回に分けて実施した。しかしながら、カリキュラム移行期による学習項目の増加や出席率の低下等の問題から、適切に3つのステップを踏むことができない課もあった。そのような場合は、実施日をずらしたり、2つのステップを合わせて実施したりすることで対応した。

音読テストの提出方法は、CD-Rの提出は録音にも回収にも手間がかかるという2012年度の反省を踏まえ、学内のSNSを使うことでその改善に努めた。筑波大学留学習者センターで作成している独習用のウェブサイト「筑波日本語eラーニング」⁴が正規の日本語クラス

でも活用されるようになり、そこにJ300のコミュニティーを作ることで、コミュニティー内での音声のアップロードも含めたやり取りが自由にできるようになった。事前準備として、学習者も教師も「筑波日本語eラーニング」にユーザー登録し、J300グループに参加する手続きをコースの開始時に徹底することが必要になったが、学習者全員が登録を完了し、DRAの2回のテストは期日を定めて、音声ファイルをアップロードさせることができた。万が一に備えて、CD-Rでの提出も許可していたが、CD-Rを提出してくる学習者はいなかった。教師からのテストのフィードバックはプライバシー保護のために、SNS上ではなく、評価シートに記入して返却した。このような方法を取ることで、CD-Rを用いた音声録音、回収、チェックに関わる煩雑さを大幅に改善することができた。

7. 今後の課題とまとめ

本稿では、2012年度におけるJ400コースで行った音読活動の報告、そしてそこでの反省を踏まえ2013年度前期に実施した音読活動の実践報告を行った。今回、アンケート結果や「わたしのカルテ」の分析から、学習者は自分の発音をどう捉え、振り返っているのかを窺うことができた。今後のDRA活動の課題として、学習者が自分の発音の問題点を把握できた後、その問題点を「学習者自身で改善できる」ようにするための方法を検討することが考えられる。活動に携わってきた教師として、DRA活動により、学習者が自分の発音・アクセント・拍などに問題点があることは理解できたとしても、その問題点を「自分で改善できる」というまでにまだ隔たりがあるように思うからである。そのためには、どのような活動を行う必要があるのか、教師からのフィードバックや指導は何を目標に、どの時点で、どのように、どの程度行うのかなどを検討し、教師間で共有する必要がある。今後も学習者の内省の過程を重視しながら、学習者が自らの問題点を発見し、改善できるような活動を考えていきたい。

謝辞：本稿執筆にあたり、旧J400コース、現J300コースのコーディネーターである、許明子先生に貴重なコメントやアドバイスをいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

注

1. 加納 (2008)、堀ほか (2013) を参考に作成。
2. 『Situational Functional Japanese』の内容を精選し、コンパクトにまとめなおしたもの(加納2008)である。
3. J400コースの中で発音を扱った活動はDRA活動だけであり、アンケート項目も発音そのものについて聞いているものであることから。

4. 筑波大学留学生センターが日本語・日本事情遠隔教育拠点として平成22年度より開発に取り組んでいるインターネット回線で自律学習が可能な日本語ラーニング教材である。詳しくは、オフィシャルサイト<http://e-nihongo.tsukuba.ac.jp/>を参考にされたい。

参考文献

- 加納千恵子（2008）「2007年度日本語補講コースの改編報告」『筑波大学留学生センター』23号：135-146
- 加納千恵子・小林真紀子・関裕子・柳田直美・石上綾子（2010）「初級後期日本語授業の目標と課題-2009年度「J400」コースの実践報告-」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』25号：67-86
- 小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子（1995）『わくわく文法リスニング』凡人社
- 筑波ランゲージグループ（1992）『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』凡人社
- 堀恵子・石上綾子・今井新悟・小野寺志津・木戸光子・小浦方理恵・近藤幸子・酒井たか子・高原真理・段麗君・許明子・李在鎬（2013）「筑波大学留学生センター初級日本語補講コース授業報告：「J100」から「J400」の取り組みと授業改善」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28号：151-172

資料1：わたしのカルテ

課	STEP	Q	わたしのカルテ	名前 ()	内容
例)	1	改善したいところは？			長音 … 招待 (×しまたい)、研究 (×けんきゆ)
	2	もらったコメントは？	(チョウウさん)から (先生)から		長音 … 参考にして (×さんこにして) よかったところ…流ちょうでいい、スピード◎
	3	改善された？			「招待」と「研究」の発音がよくなった。 長音 に気をつけるようになった。
L19	1	改善したいところは？			
	2	もらったコメントは？	()から		
	3	改善された？			
L20	1	改善したいところは？			
	2	もらったコメントは？	()から		
	3	改善された？			
L21	1	改善したいところは？			
	2	もらったコメントは？	()から		
	3	改善された？			
L22	1	改善したいところは？			
	2	もらったコメントは？	()から		
	3	改善された？			
L23	1	改善したいところは？			
	2	もらったコメントは？	()から		
	3	改善された？			
L24	1	改善したいところは？			
	2	もらったコメントは？	()から		
	3	改善された？			

この活動を改善するため、皆さんのDRAシートをコピーしてもいいですか。(はい・いいえ)

資料2：アンケート（実施前アンケート）

2012年4月20日

※このアンケートは DRA の活動をもっとよくするためにするもので、成績には関係がありません。

The results will have no influence on your personal grades of this course, so please give your honest responses. Your honest opinions and ideas will be very much appreciated in order to improve DRA

発音についてのアンケート調査 クラス (J400-) 名前: _____

※ このアンケートを発音活動の研究に使ってもいいでしょうか。名前などの情報は厳守します。使ってもいい人は○を書いてください。研究のデータとして使ってもいい。()

質問にいちばん近いと思うものに○を書いてください。

とてもそう思う
どちらともいえない
全然そう思わない

①自分の日本語の発音(pronunciation)について、自信がある。(confident)。	5	4	3	2	1
②自分の日本語の発音(pronunciation)のいいところを知っている。	5	4	3	2	1
③自分の発音(pronunciation)の問題点(どこがよくないか、何がよくないか)を知っている。	5	4	3	2	1
④どうしたら問題点がよくなるかを知っている。	5	4	3	2	1
⑤日本語のアクセントについて、自信がある(confident)。	5	4	3	2	1
⑥長音(おねえさん、ちゅうごく etc...) の発音(pronunciation)について、自信がある(confident)。	5	4	3	2	1
⑦小さい「っ」(がっこう、ざっし etc...) の発音(pronunciation)について、自信がある(confident)。	5	4	3	2	1
⑧カタカナのことばの発音(pronunciation)について、自信がある(confident)。	5	4	3	2	1
⑨流ちょうに日本語を話すことができる。	5	4	3	2	1
⑩意味を考えながら日本語を話すことができる。	5	4	3	2	1

⑪発音について、問題があると思っているところがあったら、下に書いてください。